



みんなでつくる子育てひろば

深川北みずべかわらばん

2019年
3月号

NO.169

「こどもの世界」

厳しい寒さも和らいで、ポカポカと暖かい日が増えてきました。春の訪れもうすぐですね。さて、ひろばの扉を開けると左側の本棚に1月頃から大人向けに写真集や絵本を置いています。「子どもは子どもを生きています」(写真・ことば/小西貴士/発行フレーベル館)という一冊の本があるのをご存じでしょうか。その中に「おんぶ」という写真とことばがあります。生き物好きなこうしろう君がつかまえたアズマヒキガエルをおんぶして帰る様子に、写真とことばが添えられています。指でカエルの背中をトントンと優しくたたく様子は思わずクスッと笑ってしまうほど可愛く、その姿は微笑ましくあたたかいものです。写真集の中のこどもたちは、どの子も生き生きと輝いていて、全力でこどもたちの世界を生きているのだと感じます。私たち大人も大人の世界を全力で生きています。こどもの世界と大人の世界はときどき互いが受け入れられない時もありますが、私たち大人もまた、大きくなってきた歩みには、一人ひとりの物語があり、一人ひとりの世界があったのだと一冊の本から考えさせられた時間でした。素敵な写真集です。ぜひ手に取ってみてください。3月は別れの季節であり出会いの季節でもあります。みずべでは1年の成長をみなさんとお祝いしたいと思います。3月5日に「スプリングコンサート」を予定しております。ぜひご参加ください。



山澤 美津子

ひととき 通信

一歳半のAちゃんは、とても活発で元気な女の子です。何にでも興味津々で、気になるおもちゃを見つけると一目散に走り出します。保育をしている者としては、安全のためにゆっくり歩いてほしいのですが、遊びたい気持ちがいっぱい「歩こうね」の言葉がなかなか届かない様子です。そこで支援士さんは、Aちゃんの手をつなぎながら「さんぽ」の歌を歌い始めました。するとAちゃんは嬉しそうな表情で手をつないだまま隣の部屋へ歩いていきました。それから、少しの移動でも必ず支援士さんと手をつないでいました。支援士さんの手から伝わるぬくもりと優しい歌声が、Aちゃんにとっても心地よく感じられたようでした。子どもの気持ちに寄り添った保育の温かさを感じました。

(大塚 理恵)